ちりめん街道

旧丹後国の加悦地方で、歴史的に重要な通りであるちりめん街道は、この地域のちりめん産業の貿易と流通の中心地として有名になりました。ちりめん街道の上質なちりめんの生地は、柔らかな風合いと染色性が高いことで、人気の着物用の生地となっています。

加悦地方の 3 人の男性が 1722 年にこの知識を持ち帰るまで、ちりめん織りの技術は京都の西神地区の門外不出の技術として厳重に守られていました。当時加悦はすでに絹産業を確立していましたが、このちりめん織りの技術が丹後全体に広まったことで、地域経済に革命をもたらしたのです。その後は次第にちりめんの生産が加悦地域の主要な産業となり、1803 年までに約 120 の織機が、この収益性の高い高級なちりめんを織るのに使用されました。そしてこのちりめん街道は、店や織工の住居が立ち並ぶ賑やかな商業の中心地となり、町の成長に大きく貢献したのです。

観光客はちりめん街道に沿って加悦の豊かな文化遺産を探索することができます。260 棟の建物のうち約 120 棟は、明治時代（1868 年～1912 年）、大正時代（1912 年～1926 年）、昭和初期（1926 年～1945 年）の建築となっています。またこの場所を訪れる人は、古いガラスの窓と住宅の格子の模様に気付くでしょう。多くの建物は現在も人々が住んでいますが、旧尾藤家住宅や旧加悦町役場庁舎など、一部は一般にも公開されています。またこの地域は、2005 年に重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。